



生態系保全活動を契機とした地域振興

都市的地域

さかづら

さと

うつのみやし

逆面エコ・アグリの里（栃木県宇都宮市）

- 本地域は、宇都宮市の中心市街地から北方約10kmに位置する農村地帯。地域住民の混住化・高齢化、周辺地域の開発が進行。
- 地域内に設置されたフクロウの巣箱で、産卵が確認されたことを契機に、地域をあげてフクロウを保全する機運が向上。このため、H19年度に組織を設立し、農地・水・環境保全向上対策を活用し、フクロウをシンボルとした生態系保全活動を開始。
- フクロウの保全活動を契機として、農産物のブランド化に繋がったほか、当地域を舞台として、生態系に係る学術研究も活発化。

【地区概要】

- ・取組面積 123ha（田 123ha）
- ・資源量
開水路20.2km、パイプライン3.2km、農道25.2km
- ・主な構成員
農業者、自治会、子供会、学校 等
- ・交付金 約5百万円（H29）
〔 農地維持支払
資源向上支払（共同） 〕

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、水田の広がる農村地帯であるが、宇都宮市街に近いことから、混住化が進み、農家人口が年々減少し、農地・農業用水等の適切な保全管理に支障。
- 平成17年に、自治会の住民が属するNPO法人（自然活動団体）がフクロウの巣箱を設置したところ、翌年産卵が確認され、またたく間に「逆面の自然を守る、地域をあげてフクロウを守りたい」という機運が向上。
- このため、平成19年から農地・水・環境保全向上対策を活用した、地域資源の保全活動を開始。

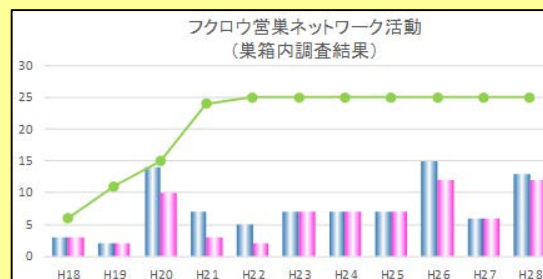


巣箱設置

水路の蓋掛け
（カエル蓋）

取組内容

- フクロウを育む豊かな生態系を有する里として、フクロウの巣箱設置やエサ場の環境整備、希少種の調査・監視と保護活動等を実施。



産卵数・孵化数の推移

- これらの活動により、フクロウのエサ場を守るための減農薬・減化学肥料に取り組む農業者もでてきており、生産された米は、H22年度に「育む里のフクロウ米」として商標登録されるまでに波及。

取組の効果

- 地域内でフクロウが継続的に営巣し、里山の豊かな環境が保全。
- 地域ブランド農産物「育む里のフクロウ米」として付加価値を高めて販売。
〔 減農薬等への取組面積 平成28年度 64 ha
通常米の販売価格(1,350円/5kg)
→フクロウ米の販売価格(2,500円/5kg) 〕
- 地元大学と連携し、フクロウの生態や地域の生態系に関する学術研究が活発化。



フクロウの赤ちゃん



育む里のフクロウ米



女性組織を中心とした活動再開の取組

都市的地域

ざるうち

うつのみやし

申内環境保全会（栃木県宇都宮市）

- 本地域は、宇都宮市の東部に位置し、ほ場整備後の恵まれた条件、環境の中で営農を行っているが、農業情勢の変化が著しく、他産業への兼業化や非農業者の混住化が進行。
- 古き良き農村の自然環境を守っていくために、農地・水・環境保全向上対策（以下「農地・水」という。）を活用し『申内みどりの古里保存会』を立ち上げ、農業用施設の補修や地域住民を巻き込んで植栽などの共同活動を実施。（活動期間：平成20年度～平成24年度）
- これまでは、地域の農地維持作業は農業者個人が行っていたが、農地・水の取組を進めていく中で、共同作業による農業用施設の補修が十分に実施できたこと、また、次に引き継ぐ役員の後継者がいなかったこともあり、活動を一旦休止することとなった。
- 農家、農村地域を守っていくには、やはり共同活動を再開する必要があるだろうという機運が女性組織を中心として高まり、多面的機能支払交付金による『申内環境保全会』を設立（活動再開：平成27年度）し、地域コミュニティの強化や農地の保全に努めている。

活動休止した経緯

- 当地区は平成10年度にほ場整備が完了し、10年くらい経過した頃、農業用施設の老朽化や水路の土砂堆積が目立ち始めたため、『申内みどりの古里保存会』を立ち上げ、施設の補修などに取組。（平成20年度活動開始）
- 5年間活動したものの、施設の補修が十分に実施できたこと、植栽など地域の美化活動が継続できたこと、また、次に引き継ぐ役員の後継者がいなかったことから、活動を一旦休止。（平成24年度活動休止）



農用地を利用した景観形成活動（彼岸花）

活動を再開した理由

- 活動休止期間中も地域の美化活動や草刈り、堀浚いなどの共同作業は行われたものの、参加者は限定的。
- 農地・水の時代から「女性では別の取組ができるのでは」、との声があったが、実現に至らず活動休止となったこと、また、以前よりも事務手続きが簡素化されたことなどから、JAの女性組織「みどり会」（女性9名）を中心に活動を再開。（平成27年度活動再開）
- 活動再開後、地域内のコミュニケーションがより取れるようになり、非農業者を含め、さらに地域をきれいにしようという意識が醸成。



女性を中心とした取組（景観形成活動）

【地区概要】

- ・取組面積 51ha（田51ha）
- ・資源量 開水路7.5km、農道6km
- ・主な構成員
農業者、非農業者、自治会、婦人会、小学校
- ・交付金 約3百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同）

取組の効果及び活動展開

- 活動への参加が強制されないこと、女性の役員が多く、参加しやすい雰囲気となったことから、共同活動の参加者が増加。
〔 彼岸花ロードの草刈りの
参加人数 H27 19人 → H28 25人 〕
- 小学1年生による生き物調査を実施してきたが、3年生による農業体験学習を新たに開始。また、これまで1校だったが、2校に増やすなど食育の推進に寄与。
- 子供会との交流活動として、収穫体験（トウモロコシ、サツマイモ）を実施。
〔 参加人数 H27 43人 → H28 69人
※親を含む人数 〕
- 地域農業や活動組織の役員となる後継者を育成するとともに、営農集団の設立など将来にわたる持続可能な地域農業を検討。



子供会との交流会



人と人のつながりによる多様な取組の展開

さんくちよう

なすしおばらし

三区町環境保全隊（栃木県那須塩原市）

- 当地域では40年ほど前から混住化が進み、それまでの純農村地帯から現在は約750戸の85%が非農家となり、人と人の繋がりが希薄となり、伝統行事の衰退化が進んでいた。
- 問題を解決する一助となればと、農地・水の事業紹介を受け、農業者7名が発起人となり、「人と人のつながりをどう構築していくか」を大きなテーマとして農業者と非農業者が一体となった地域づくりをスタートした。
- 農業者と非農業者、都市住民と「人と人のつながり」を構築し「地域の協働力」を一步一步着実に高める活動として非農家や都市住民を巻き込んだ環境保全活動等に取り組んでいる。

【地区概要】

- ・取組面積 159ha(田149ha、畑 10ha)
- ・資源量
開水路 18.3km、農道30.0km
- ・主な構成員
農業者、自治会、老人会、消防団、農協女性会、子供会育成会、NPO等
- ・交付金 約8百万円(H29)

〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

取組の目的

○「人と人のつながり」を構築し、「地域の協働力」を一步一步高める活動として、農業者と非農業者のバランスのとれた取組を推進。

取組の例

- ・生き物調査
 - ・田園ウォーク
 - ・地域イベントに協賛しての広報活動
 - ・環境等の啓発活動
 - ・景観形成のための植栽
 - ・子供会育成会との連携(見学会等)
- ※活動に当たっては非農家や都市住民との交流を図っている



生き物調査



啓発看板の設置



花植えによる景観形成



田園ウォーク

活動の広がり



NPOと保全隊の取組状況
(歴史公園の清掃活動)

活動をホームページで広くアピール



○ 農地・水の取組をきっかけにNPO法人三区町地域資源・環境保全会を設立し、活動組織では取り組めなかった歴史的施設の保全や地域の環境保全の取り組みを開始。

○ 三区町環境保全隊やNPO法人三区町地域資源・環境保全会ではHPを作成し、活動を広くアピールしている。

新たな展開



地域住民等へのアンケート



「三区ど〜すっ会」



全国環境保全型農業
コンクール大賞(大臣賞)



「三区女性の集い」

○地域の農業・農村を誰が担っていくのかを協議する30代～40代の若者でこうせいされる「三区ど〜すっ会」を中心に、将来に向けて話し合いを進めている。

○取組に重要な役割を果たしている、女性の感性を活かす「三区町女性の集い」を立ち上げ様々な活動に取り組んでいる。

○取組の成果として、各種コンクールにエントリーし受賞。これが自信に繋がる。



里山復元による「憩いの場」づくり

しかだやましゅうへん

鹿田山周辺広域協定（群馬県みどり市）

- 群馬県東南部、渡良瀬川の大間々扇状地中央に位置する鹿田山中腹に広がる標高100～200mの畑地帯である。
- 近年、混住化や高齢化の進行により地域資源の保全管理に係る共同活動が低調化。
- 多面的機能支払交付金において、荒れた畦道のフットパス整備と耕作放棄地への菜の花の植栽を行うことにより、集落の協働意識を醸成。
- 平成29年度より、「鹿田山環境保全ネットワーク」、「上鹿田むらづくり推進協議会」、「大間々用水と地域農業を守る会」の旧3組織により「鹿田山周辺広域協定」を設立し広域活動組織となる。

【地区概要】

- ・取組面積 343ha（田75ha、畑268ha）
- ・資源量
開水路37.0km、パイプライン82.0km、
農道162.6km、ため池5箇所
- ・主な構成員
農業者、非農業者、水利組合、自治
会、JA、土地改良区、老人会等
- ・交付金 約18百万円（H29）

〔 農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化） 〕

活動開始前の状況や課題

- 元々は桑畑地帯であり、県営かんがい排水事業を契機に露地栽培（野菜）が進んだが、施設園芸のウエイトが高まり近年では農地余りの傾向が見られる。
- 急傾斜地など耕作条件の悪い桑畑は、伐根されないまま耕作放棄され、荒れ地化していたため、ゴミの不法投棄が頻発するなど耕作放棄地の解消が地域の緊急課題となっていた。



- 荒れ果てた畦道をフットパス整備により、集落の協働意識を高めることを第一段階とし、それから景観植物の植栽による耕作放棄地の解消と鹿田山の景観保全に繋げることとした。

取組内容

フットパスの整備



（鹿田山環境保全ネットワーク）

- かつて農家同士がお茶休みや話し合う場として利用していた畦道を復活し、集落コミュニケーションの形成に貢献している。

遊休農地の利用



（上鹿田むらづくり推進協議会）

- 多面的機能支払交付金の資源向上活動により、遊休農地を利用し、ひまわりを育て、「ひまわりの花畑まつり」を開催している。

取組の効果

- 平成18年度より取り組んできたフットパス整備は、全長4.1kmとなり、地域住民などの憩いの場として賑わっている。

ひまわりの花畑



（上鹿田むらづくり推進協議会）

- 「ひまわりの花畑まつり」には多くの来場者が訪れ、大いに賑わっている。また、秋に咲くひまわりは珍しいため、インターネットでの口コミも広まり、まつりの期間以外でも多くの観光客が訪れ、みどり市の観光地の一つとなっている。
平成28年の来場者：約24,000人



広域化による担い手の明確化・農地集積に向けた推進

めいわ 明和地域広域協定（群馬県明和町）

- 町では、農業者が年々減少しており、地域資源（農地、農業用施設等）を継続的に守ることが困難となっていた。この中で、平成19年度から9活動組織において「農地・水・環境保全向上対策」に取り組み始め、平成27年度には12活動組織となり、着実な定着が図られてきた。
- 各活動組織は、地区の自治会と一体となり、地域資源の維持保全、景観保全のための植栽活動や地区内美化運動等を推進することにより、集落機能の活性化や伝統芸能、コミュニケーション作りを目指している。
- さらに、活動計画には地域住民との意見交換等の開催を位置付けており、地域農業の将来と課題についても話し合いを進めている。
- 平成28年からは、既存組織に未実施だった4地区も取り込み、地元NPOに事務処理の一部を委託し、町単位の広域活動組織として活動を実施。

【地区概要】

- ・取組面積835ha（田433ha、畑402ha）
- ・資源量 開水路198.6km、農道233.7km
- ・主な構成員
農業者、自治会、子供会 等
- ・交付金 約56百万円（H29）

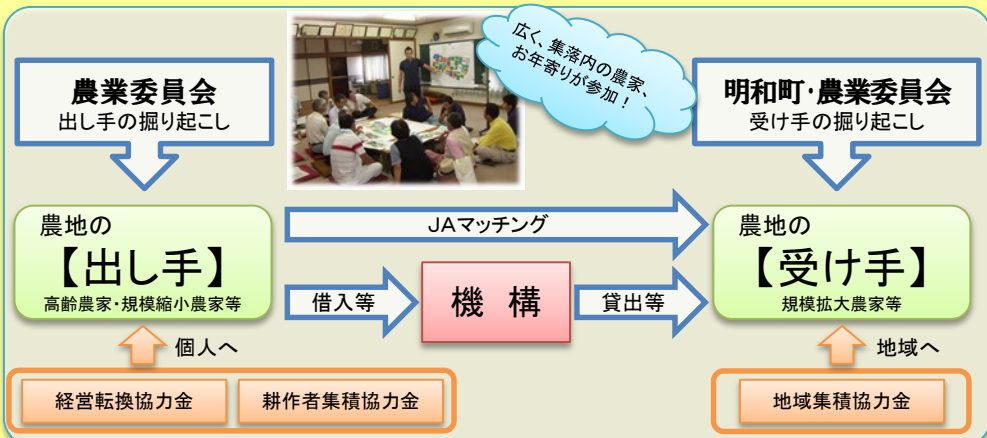
（農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化））

担い手の明確化・農地集積

- 集落内の全農用地において本制度に取り組んでいる地区では、活動組織の話し合いの場で、集落全体に係る議題について検討できる。
- 担い手への農地集積を進め、地域農業の持続的発展を目指す。
- 担い手への農地の集積・集約は、農地中間管理事業の活用。

取組内容

- 矢島地区では、活動組織の話し合いの場を通じて、農地中間管理機構を事業主体とする農地集積に合わせた簡易ほ場整備（区画拡大）の実施を検討。



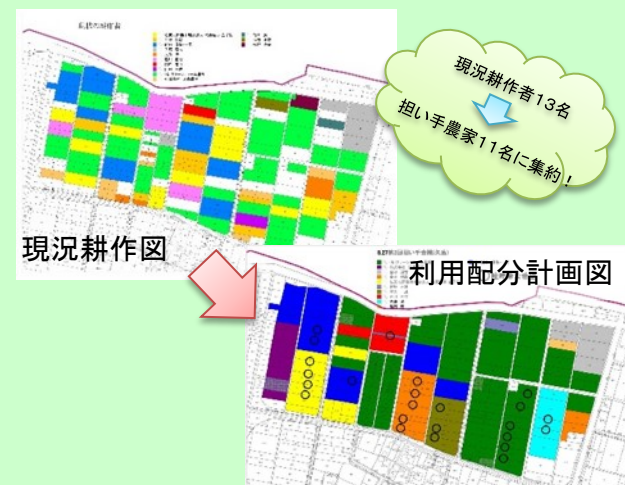
担い手の明確化
農地集積計画づくり

「人・農地プラン」の策定・見直し
明和町・人農地プラン検討委員会

取組の効果

【矢島地区】

- 簡易ほ場整備エリア集落内の全農用地が多面的機能支払に取り組んでいるため、活動組織の話し合いの場で、集落全体に係る議題について検討できた。
- この中で、H27では簡易ほ場整備エリア12haのうち、3.2haの区画拡大を実施。



【今後の取組】

- 町内の各集落で、矢島地区と同様に担い手への農地の集積・集約を実施予定。



女性グループを中心とした活動で活性化

ひがしあがつままち

岡崎地区保全協議会（群馬県東吾妻町）

- 当地域は榛名山と吾妻川の間、前橋市の北西に位置した田園地帯で、北西部にある吾妻溪谷に代表される景勝地への副道として車両通行があり、道路沿いの農地ではゴミの不法投棄による環境悪化が問題となっていた。
- 平成20年度から農地・水保全活動組織の岡崎地区保全協議会が発足。1構成員として女性組織「じろべえ会」も参画。
- 女性組織は、取組のPR活動や地域との交流会を主体となって推進しており、地域振興の一助となっている。

【地区概要】

- ・取組面積 83ha（田39ha、畑44ha）
- ・資源量
開水路 7.6km、パイプライン 20.1km、
農道 20.2km、ため池6カ所
- ・主な構成員
農業者、自治会、女性会、小学校
PTA等
- ・交付金 約5百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

女性の役割

- 女性だけで構成する「じろべえ会」は地域の新田開発に尽力のあった代官の遺徳をしのび、その屋敷跡周辺の清掃活動等を30年以上継続している組織。
- 農地・水の活動組織の設立にあたって、「じろべえ会」との活動目的が一致したことで、組織の1構成員となった。
- 活動組織等が行うPR活動等では主体となって活動を進めている。



代官屋敷跡周辺 清掃活動



活動の広がり



農地・水回りの
環境美化活動



花の植栽活動



地域の祭礼での
餅つき大会



農業用パイプラインを
利用しての消防訓練
（餅つき大会時）

- 祭礼等のイベントの際は活動組織のPRとして「じろべえ会」が主体となって餅つき大会を開催。
- 地域の活気を増進して、地域の活性化にも貢献。

活動の効果



女性部の結束は強く
会員も増え続けている



「家を守るのは女性」と
積極的に消火訓練に参加



- 女性が主体で実施していることもあり、地域のイベントの際は、非農家も含む地域住民が気軽に参加しやすい環境が形成されている。
- 「じろべえ会」では毎年1回は会員で旅行に行くなど、つながりを深めることも行っており、現在でも会員は増え続けている。活動組織の活気にも繋がっている。



長野堰広域協定（群馬県高崎市）

- 本地域は、世界かんがい施設遺産に選定された長野堰用水の受益であり、本交付金で施設の保安全管理や「長野堰用水」を活用した活動を実施。
- 土地改良区が中心となって広域活動組織を設立。土地改良区は事務局として広域活動組織に参画し、農業者の負担軽減を図るとともに各種活動の企画や助言等を行っている。
- 小学校や自治会と連携して、「長野堰用水」の景観形成活動を実施しているほか、長野堰用水をより多くの人に知ってもらうためにウォーキングイベントを開催し、施設の魅力を発信。

【地区概要】

- ・取組面積 362ha
(田362ha)
- ・資源量 水路46.1km、農道17.3km、
ため池2箇所
- ・主な構成員 農業者、土地改良区、
自治会等
- ・交付金 約19百万円(R1)
〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

活動開始前の状況や課題

- 平成28年度に長野堰用水が世界かんがい施設遺産に登録された。
- 長野堰用水は農業用水だけでなく、市街地全域の防火用水及び環境美化用水等に利用されていることから、地域では施設の魅力を発信していきたいと考えていた。
- 地域のまとめ役がいなかったことや事務負担を理由に本交付金を実施できないでいた。
- 長野堰用水の幹線水路は土地改良区が保安全管理し、下流は慣習的に地域の農業者が中心となって保安全管理してきたが、農業者の高齢化や減少に伴い、管理が困難になっていた。



世界かんがい施設遺産に選定された長野堰用水

取組内容

- 地域資源を地域が一体となって保安全管理していくために、平成30年度に土地改良区が中心となって広域活動組織を設立し、事務局として参画。
- 長野堰用水に親しんでもらうため、地域の小学生と円筒分水周りの景観形成活動として植栽を実施。
- 長野堰用水をより多くの人に知ってもらうためにウォーキングイベントを開催。
- 自治会と連携して、長野堰用水の土砂上げやゴミ拾い等の保安全活動を実施。



ウォーキングイベントの様子



清掃活動の様子

取組の効果

- 活動を通じて、子どもたちや地域住民に長野堰用水の歴史や役割を知ってもらう機会を設けることができた。
- 地方紙に本交付金の活動を取り上げてもらうことで長野堰用水や地域の魅力を発信できた。
- 土地改良区が事務局を担うことで、農業者の負担軽減が図られ、農業者は活動に専念できた。
- 本交付金の活用により集落の枠を越えて、農業者、非農業者が協力して施設の保安全管理を実施できた。



植栽活動の様子



市内を流れる長野堰用水

生産緑地における農業者と地域住民等の共同による取組

ちーむ ぞうだぼり ふちゅうし
Team雑田堀（東京都府中市）

- 本地域は、府中市の中部に位置し、府中用水の支流である雑田堀用水の流域で、米やさつまいも等の栽培が行われており、農業者と小学校のPTAを中心に水利施設等の保安全管理（用水路を含む緑道の清掃）を実施していたが、農業振興地域ではないため、農地・水保安全管理支払には取り組めなかった。
- 平成26年度の多面的機能支払の制度創設により、農地維持支払は生産緑地等も対象となったこと、また、水利施設等の保安全管理について、農家と小学校のPTAが中心となり、組織を立ち上げた。
- 従来、農家が実施していた施設の点検、「雑田堀用水に親しむ会」を中心として実施していた草刈等を活動組織の取組として実施。

【地区概要】

- ・取組面積1.9ha（田0.2ha、畑1.7ha）
- ・資源量 水路0.7km
- ・主な構成員
農業者・小学校PTA、雑田堀用水に親しむ会、企業社員等
- ・交付金 約4万円（H29）

農地維持支払

活動開始前の状況や課題

- 本地域は 都市化が著しく進行し、雑田堀用水に沿って生産緑地が点在する状況まで宅地化され農地が減少していることから、水利施設等の保が重要
- 平成14年頃から農業者と小学校のPTAを中心に水利施設等の保安全管理（用水路を含む緑道の清掃）を実施



貴重な農地



幹線水路

取組内容

- 平成27年度から本取組により水路法面の草刈りを実施
- 緑道に日日草を植栽する活動
- 地域の小学校の放課後活動との連携（小学生に読み聞かせ等を実施）
- 構成員以外の地域協力者と「地域活動懇談会」を実施
- 市民協働まつりで活動事例を発表（参加者数50人程度）



活動組織と小学生等による水路の草刈り



読み聞かせ

取組の効果

- 構成員に限らず、小学生や保護者等が多く参加（毎回約50人参加）
- 緑道の植栽、看板による注意喚起、ゴミの投棄が減少
- 地域ぐるみで市議、援農ボランティア、企業社員等10数名も活動に参加し地域が活性化
- 担い手の確保・育成が進みつつある



看板の設置



生産緑地における稲作農家を中心とした取組

都市的地域

はねようすい

はむらし

羽用水保全会（東京都羽村市）

- 本地域は、羽村市西部の多摩川左岸に位置する市内唯一の水田地帯であり、水利施設等の保全管理は用水組合が行っていたが、農業者の高齢化と相まって、施設の老朽化等が進み、維持管理に苦慮していた。
- 本交付金の取組により、施設の点検、水路・農道の草刈り、泥上げ等の保全活動を持続的に行える体制が整い、都市的地域の生産緑地における水田農業の持続と、水田を活用した農業体験やチューリップまつりなどの取組を支えている。

【地区概要】

- ・取組面積 7ha（田6ha、畑2ha）
- ・資源量 開水路1.4km、農道1.2km
- ・主な構成員 農業者 41名
- ・交付金 約20万円（H29）

農地維持支払

活動開始前の状況や課題

- 本地域の水田は、地域の小学校の農業体験学習や、収穫後のチューリップ栽培、大賀ハスの植栽池などに利用され、観光資源として年間を通じて学びや交流の場を提供。
- しかし、用水組合の農業者の高齢化や農業水利施設の老朽化等により、維持管理作業や費用の負担が増大し、施設の保全管理に苦慮。また、営農の継続にも不安があった。

幹線水路



羽村市内の唯一の水田地帯

取組内容

- 平成27年度から本取組により用排水路の泥上げ、畦畔や用水法面の草刈りのほか、遊休農地の発生状況の把握、防止のための取組等も開始。また、本取組により、余力ができた用水組合は水路補修を直営で施工。
- 以前から、継続的に取り組まれてきた農業体験学習やチューリップまつり等の観光イベントにも協力。



活動組織による水路の草刈り



用水組合による補修作業

取組の効果

- 農地や農道、農業水利施設が適切に保全管理されることにより、農業の持続性と、様々な観光イベントの継続性が向上。

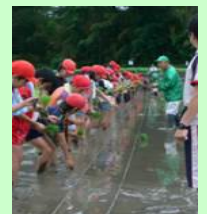
農業体験学習：参加者延11,943名（H28）
チューリップまつり：来場者約7万人（H29）

- 地域に密着した活動により、次世代へと文化・風習を受け継ごうとする機運が向上。
- 本取組により農業が継続されることで、市民・地域企業・市外を含むボランティアがサポーターとなっている観光イベントの更なる発展も期待。

チューリップオーナー（H28）
個人：127人
団体：61団体
会費：153万円
植付等ボランティア（H28）約1,700人



チューリップ祭り



農業体験

都市住民との交流など地元の活性化につながった農村環境保全活動

はやかわ おだわらし
早川の自然を楽しむ会（神奈川県小田原市）

- 本地区は、豊臣秀吉が小田原城攻めで築造した一夜城に隣接し、この歴史的資源を活用した都市住民との交流活動を通じて地域の活性化を目指しており、毎年2回の遊休農地を活用した花摘み体験のイベントを中心に農道沿いの植栽（ツツジ、サツキ、桜など）といった四季折々の花をテーマに農村環境の改善に取り組む。
- また、県内有数のみかんの産地として知られる本地区の農業を次世代に残していくため、柑橘類の生産基盤となる農道の管理を中心とした農地維持や資源向上（共同活動）を実施する。

【地区概要】

- ・取組面積 45ha（畑 45ha）
- ・資源量 農道 17.5km
- ・主な構成員 農業者、非農業者
（土地改良区、JA青壮年部、早川活性化推進協議会）
- ・交付金 約1百万円（H29）
農地維持支払
資源向上支払（共同）

地域の現状



- 主要作物：通年栽培
早生、普通温州（藤中、青島、大津）、晩柑類（湘南ゴールド、デコボン、夏みかん）及び花卉、植木の栽培
- 柑橘の生産が年間を通して盛んな地域であるが、海辺の集落から急傾斜の続く樹園地へ通作道が何本もあり、農道役員を置き、集落の共同作業で草刈りや豪雨後の点検などの維持活動を実施
- 事業導入以前は、維持管理費用は、すべて農家の自費

取組内容



- 農道や樹園地法面の点検を実施し、草刈りや清掃などの適正管理を実施
- 異常気象時の見回りを実施し、農地や農道の応急措置などを実施
- 都市住民との交流会を通して、地域の活性化の推進と農業農村の有する多面的機能の理解促進活動を実施

効果、課題、今後の展開

- 平成19年度から本事業に取り組んでおり、活動の進展にあわせ取組面積を拡充

H19	H25	H28
28ha	35ha	45ha

遊休農地の発生抑制面積が6割増加

- 土地改良区、JA青壮年部、地元で組織する早川活性化推進協議会と連携



- 遊休農地を活用した農村環境保全活動にて、コスモスやポピーの摘み取り等を実施し、都市住民との交流を図り、地元の活性化を推進



（10、3月開催、約2,000人來訪）

遊休農地を活用した観光・都市農村交流



樹園地における農村環境保全活動

やまなし

日下部地域環境保全委員会（山梨県山梨市）

- 日下部地区は、山梨市の中でもJRや国道・県道等の主要交通機関の沿線に位置し、商業地や住宅地の周辺に農用地が混在している地域である。
- 地域の耕地の9割程度が果樹園で、ぶどう、桃、柿等が栽培されているが、高齢化の進行によって離農が進んでおり、地域の共同活動への参加者が減少傾向にあった。
- 地域の水路は自然石の空石積みが多いことから、これを活用した生態系配慮区域を設定しホタルの生息環境保護活動を実施するなど、地域の環境向上を図っている。

【地区概要】

- ・取組面積 30ha（畑30ha）
- ・資源量 開水路4.0km、農道3.0km
- ・主な構成員 農業者、非農業者
- ・交付金 約1百万円（H29）

〔 農地維持支払
資源向上支払（共同） 〕

地域の状況



樹園地に隣接する水路の様子

- 昭和30年代まで水稲と麦の二毛作地帯であったが、その頃の農地がそのまま果樹主体の営農に変化していったため、農地の区画形状は不揃いで、農道は曲がりくねって幅員は狭い。水路は自然石の空石積みが多い。
- 水路や農道の草刈り、泥上げは、農地・水保安全管理支払交付金に取り組む以前から地域の共同活動として定着しており、農家・非農家を問わず水利組合費が徴収されていたが、高齢化や離農の進行に伴い、活動への参加者の減少が問題となっていた。

取組内容



自然石の
空石積み水路
と道路の補修



ホタル水路の
維持管理

地区内の水路は、昔からの用排兼用水路で、空石積み水路が多いことから、この水路を活用し、深みやよどみを設けるなどホタルの生息に適した状態に維持する取組を行っている。

今後の課題

- 山梨市では全耕地の15%が耕作放棄されており、本地域でも高齢化や離農の進行により耕作放棄が増加している。
- 果樹は水田作等に比べて作物転換が困難であることから、営農放棄された農地では、果樹がそのまま放置されている場合が多い。
- 今後も増加し続ける耕作放棄地の防止等の課題に対応するため、本交付金を活用した前述の取組を実施することとしている。



むらやま さと はぐく

ほくとし

村山の郷・育む会（山梨県北杜市）

- 本地域は、ハケ岳、南アルプス山脈、奥秩父山塊といった山々に囲まれ、南には富士山も望める市のほぼ中央にある高根町に位置する水田地帯。世界かんがい施設遺産に選定された「村山六ヶ村堰疎水」を活用した様々な活動を本交付金により充実。
- 小学校等と連携して、村山六ヶ村堰疎水の歴史や役割について学ぶ親子3世代のイベントを開催したり、疎水によって育まれる食材の魅力発信などもイベントに取り入れ、地域内の様々な組織と連携し、集落間や親子3代の交流を図り、地域を活性化。

【地区概要】

- ・取組面積 342ha
(田238ha、畑104ha)
- ・資源量 水路12.3km、農道3.0km
- ・主な構成員 農業者、婦人会、子供会等
- ・交付金 約24百万円(R1)
- 〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

活動開始前の状況や課題

- 平成28年度に村山六ヶ村堰疎水が世界かんがい施設遺産に登録された。
- 本地域は、旧六ヶ村の17集落により構成されているが、共同活動に参加する若い世代の減少等により、集落単位のコミュニティ機能が低下。
- 村山六ヶ村堰疎水やその周辺に生育している希少植物などの観光資源があるものの、それらの資源を保全し、郷を守り育て次世代につなぐという気運が低いことが課題であった。



世界かんがい施設遺産に選定された村山六ヶ村堰疎水

取組内容

- 本交付金を活用し、集落間で連携し、小学校の総合学習や親子3代で疎水の歴史や役割について学ぶウォーキングイベントを開催。
- 伝統食(ほうとう)の調理体験や女性グループによる地域の特産物であるトマトを活用したスイーツ試食会、希少植物の観察会等の地域の魅力を学ぶためのイベントを実施。
- 活動組織で設計・積算を行い、地域の在石を利用して景観に配慮した補修を実施。



ウォーキングの様子



景観に配慮した水路の補修

取組の効果

- 地域内の子どもを対象に疎水の歴史や役割を学ぶ環境学習に取り組むことで、親世代にも、疎水保全に係る理解を醸成。
- 村山六ヶ村堰疎水や地元食材など地域の魅力を発信。知名度を上げることで、多くの観光客が来訪し地域を活性化。
- 本交付金の活動を通じて、疎水の歴史や文化、地域資源を次世代へ残していこうという気運が高まっている。



絶滅危惧種の
キキョウ



地域の伝統行事(虫送り)



担い手の負担軽減による構造改革の後押し

平地農業地域

【地区概要】

- ・取組面積 93ha(田 89ha、畑 4ha)
- ・資源量
開水路 39.3km、農道 23.4km、
ため池 5箇所
- ・主な構成員
農業者、自治会、JA、水利組合、
草刈支援隊、PTA等
- ・交付金 約8百万円(H29)
〔 農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化) 〕

こいずみみどりかい

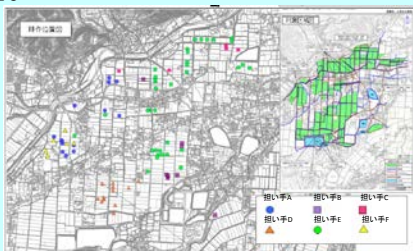
うえだし

小泉水土里会 (長野県上田市)

- 本地域は、約3割の農地が担い手に集積されているが、農地周りの管理が困難となり、雑草が繁茂し、病害虫の発生や農作業の安全性の確保にも支障。また、地区に点在する担い手の借入農地を、面的に集約を図ることが課題となっていた。
- 本制度により、活動組織と担い手との検討会を実施。その結果、「草刈支援隊」を結成し、担い手の農地周りの草刈り等を支援することになった。
- これにより、担い手の維持管理に係る負担が軽減され、米の品質管理等の時間を充実。また、担い手に集積した農地の面的な集約化を進めるための地域の受入れ体制を整備。

活動開始前の状況や課題

- 地域の約3割(約30ha)の農地は、6名の担い手(うち4名は他集落からの入り作者)等に集積。
- 一方、担い手は農地周りの管理が困難となり、雑草が繁茂して景観を損ない、病害虫の発生や農作業の安全性の確保にも支障。
- 農業者の減少、高齢化等により、ため池や水路等の維持管理が粗放化。
- 担い手の作業の効率化や規模拡大を図る上で、地区に点在する担い手の借入農地を面的に集約することが課題。



担い手による耕作地の位置図

取組内容

- 担い手の負担軽減のため、「草刈支援隊」を結成。水路・農道等の草刈り・泥上げ等の共同活動は、地区外の担い手を除く構成員で年3回実施。



草刈支援隊による、担い手の農地周りの草刈

- 活動組織と担い手との検討会を実施し、その結果、生産性の向上や地域農業の持続的な発展のため、担い手の経営規模拡大に協力することで合意。



活動組織と担い手との検討会

取組の効果

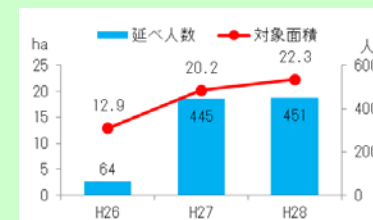
- 管理の行き届いた農地が増え、病害虫の発生防止や農作業の安全性を確保。



管理の行き届いた農地

- 担い手の維持管理に係る負担が軽減。その結果、米の品質管理等の時間を充実。

〔 維持管理費(草刈り)の節減
33時間/ha/年、4.5万円/ha/年の節減 〕



草刈支援隊の活動実績

- 今後増加が見込まれる担い手への農地集積に対し、面的な集約化を進めるための地域の受入れ体制を整備。



地域おこし協力隊員を活用した1村1広域活動組織の事務負担軽減

まつかわむら

まつかわむら

松川村すずむしの里保全組織委員会（長野県松川村）

- 松川村は長野県の北西部に位置し、信州安曇野の豊かな歴史と文化、四季折々の自然環境に恵まれた農村地帯であり、村では地産地消、食育活動、育成会活動に取り組んできた。
- 基幹産業である農業の振興を通じて地域を守り、豊かな農村環境を子供達の世代に引き継ぐため、平成19年度から「農地・水・環境保全向上対策」に取り組む。（H19：10組織→H29：20組織）
- 事務作業の多様化及び各組織の事務担当者の高齢化が進んだため、代表者会議で活動組織の広域化による事務負担の軽減を検討。広域活動組織の事務と地域活性化の取組を支援する『地域おこし協力隊員』を募集し、平成28年度に1村1広域活動組織への統合を実現。

【地区概要】

- ・取組面積 954.3ha
（田851.9ha、畑83.5ha、草地0ha）
- ・資源量 水路150.2km、農道95.9km
- ・主な構成員 農業者、非農業者、
営農組合、JA、土地改良区等
- ・交付金 約69百万円（H29）

農地維持支払
資源向上支払（共同、長寿命化）

活動開始前の状況や課題

- 松川村は、基幹産業である農業の振興を通じて地域を守り、安曇野の豊かな農村環境を子供達の世代に伝えることが重要な課題
- 農業者の高齢化が進み、集落が従来どおりの地域資源保全活動を継続できるのか不安を感じる人が増加
- 農地・水・環境保全向上対策に取り組むことにより、①高齢農業者に代わる地域資源の保管理体制の整備、②農家収入の増加、③安曇野市・松本市のベッドタウンとして増加する非農業者の農村に対する関心向上などを期待



松川村の景観

取組内容

- 【統合前（H19～H27）】
- 各組織（集落）が個々に活動を実施
- 【広域活動組織への統合後（H28～）】
- 運用の統一化の調整が難しい農地維持活動、共同活動は引き続き検討することとし、長寿命化の活動を先行して、平成28年度から全組織（H28は19組織）の年間交付金額を一括運用するため、広域活動組織化
- 広域活動組織の事務は、H27に募集、H28から採用した地域おこし協力隊員が支援（村の経済課に配置）



広域活動組織の活動計画図

取組の効果

- 農業者には馴染みのない、長寿命化対策の契約手続き等の事務を事務局（地域おこし協力隊員）がカバーすることで、各組織（集落）の事務負担が大幅に軽減
- 各組織（集落）の、平成28年度以降の5年間の長寿命化対象施設リストづくりと着工順位付けを実施。地域の合意が得られたことで、必要な改修を優先度に応じて計画的かつ効率的に実施することが可能となった
- 地域おこし協力隊員の活用により、①地域にとっては、広域活動組織の事務の引き受け手の確保、②協力隊員にとっては、関心を持っていた農業農村振興に携わり、しかも地域の多くのキーパーソンと交流を深め、頼ってもらえるようになるなど、双方にメリット



優先順位の高い箇所から長寿命化を実施



うきしま ちく 浮島地区農地・水・環境保全管理協定（静岡県沼津市） ぬまづ し

- 本地域は、希少な湿原植物が生育し、「静岡県版レッドデータブック2004」では、“今守りたい大切な自然”の1つに挙げられているが、遊休農地の有害植物の繁茂や、工事残土の不法投棄で、地区目標の「住んでよかった浮島・住みたい浮島」に向け、環境や農地の保全が必要となっていた。
- NPO法人と連携し、遊休農地や不法投棄場所にひまわりを植栽し、開花時期には、ひまわり祭りを開催している。また、中日本高速道路(株)と連携し、ヨシの刈り取りなどを実施。
- これにより、遊休農地2,000m²の解消や、地域の子どもの環境教育の機会を提供する他、都市住民との交流や、高速道路SAでの農産物の直売などに発展している。

【地区概要】

- ・取組面積:85ha（田74ha、畑11ha）
- ・資源量 水路15.2km、農道16.2km
- ・主な構成員
農業者、非農業者等
- ・交付金 約7百万円(H29)

農地維持支払
資源向上支払(共同、長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 希少な湿原植物が生育し、「静岡県版レッドデータブック2004」では、“今守りたい大切な自然”の1つに挙げられている。
- 農業者の減少・高齢化により遊休農地が発生し、希少種を脅かす有害植物が繁茂。また、工事残土の不法投棄などで、地区の環境悪化が懸念。
- 地区目標に掲げている「住んでよかった浮島・住みたい浮島」に向け、環境や農地の保全が必要。



浮島沼の景観

取組内容

- NPO法人と連携し、景観向上・環境保全活動を実施。
 - ・ 景観向上活動として、遊休農地や残土の不法投棄場所に、地域住民等とともに1万5千本のひまわりを植栽。「**浮島ひまわりらんど**」として造成。
 - ・ 古城社内の湧水を活用したイベントを開催し、水源確保などの環境教育の場を提供している。
- 県の行う「一社一村しずおか運動」により、中日本高速道路(株)とともに、「ヨシの刈り取り」等の交流イベントを実施。



浮島ひまわりらんど



企業と連携したヨシの刈り取り

効果、課題、今後の展開

- NPO法人との連携
「浮島ひまわりらんど」の造成により、以下の効果が発現している。
 - ・ 遊休農地3,000m²を解消。
 - ・ ひまわりのフォトコンテストを開催し、市内外から約700人/年が来場。
 - ・ 地元農産物の販売と組み合わせ、地区外の住民との交流イベントとして発展。
- 中日本高速道路(株)との連携
 - ・ 「稲刈り体験」などに、毎年、社員や親子など都市住民30人程度が参加。
 - ・ 共同活動をきっかけに、高速道路SAでの地元農産物の直売を行うようになった。